

1 申請者の情報		申請年月日	2024.9.12
フリガナ	マサキゲカコウモンカ	住所・所在地	〒740-0018 山口県岩国市麻里布町5-3-12
医療機関の名称	マサキ外科肛門科		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	0	19	0	0	0	19	19
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1	0	19	0	0	0	19	19

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	0	11	0	0	0	11	11
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3	0	11	0	0	0	11	11

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	0	3	0	0		3	3

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4	0	0	0	0	0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	0	0	0

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5		1,028		1,028
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7				0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		マサキ外科肛門科	有床診療所入院基本料2	急性期	19床	11床
		②				
		③				
計					19床	11床

※平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和2年度】

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更時期
		マサキ外科肛門科	有床診療所入院基本料2	急性期	8床	令和3年3月
		②				年 月
		③				年 月
計					8床	



【令和6年度】

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		マサキ外科肛門科	有床診療所入院基本料2	急性期	3床	令和7年3月
		②				年 月
		③				年 月
計					3床	



【令和7年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

		病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
R7 年度	病棟別内訳	①			未定	年 月
		②				年 月
		③				年 月
	計					床
R8 年度	病棟別内訳	①			未定	年 月
		②				年 月
		③				年 月
	計					床

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。

※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 マサキ外科肛門科

1 地域の状況		
地域の現状と課題	当院は肛門疾患の外科的治療(入院治療)を行っているが、国立岩国医療センターには肛門外科専門医がおらず(大きな手術症例で手一杯)、当院が肛門疾患入院手術を行うことで国立岩国医療センターの負担が軽減し、地域医療連携が上手くいっている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	岩国医療圏での肛門疾患入院手術の実施割合で、当院の実績はかなり高い割合を占めていると思われる。国立岩国医療センターは大きな手術をこなす役割があり、また小さな手術をおこなう余裕がないように思われ、肛門外科専門医も不在の状況で、当院で引き続き入院手術を実施することができれば、地域医療連携に寄与できるのではないかと考える。	
病床数の見直し	見直しの考え方	現在、急性期病床8床で運用しているが、将来の医療需要等を踏まえ、適正規模と考えられる3床に見直しを行う。最近の肛門疾患手術方法の進歩により、平均在院日数の短縮が進み、3床でもこれまで実施してきた年間150~200症例の入院手術を十分こなせると考えている。今後は、腰痛等の患者は他医療機関での治療を願ひ、地域医療連携に資する肛門疾患の手術患者中心の入院医療を提供していきたい。
	対象の病棟・病床の概要	急性期病床(有床診療所入院基本料2)
	入院患者への対応	地域医療連携に資する肛門疾患の入院手術治療を行う。受け入れる新規入院患者数を減らし、段階的に調整していく。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	当院が地域での役割として求められている肛門疾患の入院手術について、継続して実施していくため、他医療機関との役割分担・相互連携や将来の医療需要等を踏まえ適正規模の病床に見直すことは、地域医療構想の実現に資するものと考えられる。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		R8		計
		変更時期		変更時期		変更時期	
高度急性期							
急性期	△ 5	R7年3月					△ 5
慢性期							
合計	△ 5						△ 5

※複数年度に渡る削減を予定している場合は各年度に削減(計画)病床数を記載

【参考】R5病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
報告	①R5(2023)現状	268	467	194	682	69		1,680
	②R7(2025)予定	266	479	235	663	9		1,652
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505			1,501
④構想との差(R5)(①-③)		137	48	△ 252	177			110
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	60	△ 211	158			142